



八重山地区代表（与那国支店）

ふがらっさー クシティ

与那国小学校6年 きむら 木村 ともゆき 知行

皆さん、クシティって知ってますか？

「クシティ」はサラダに入れたり、天ぷらにしたり、刻んでパスタに入れたりもする、与那国島で昔から食べられている、とても栄養のある野菜です。

今、アジア料理が日本中でブームになっていて、今年の5月連休に、祖母の住む千葉県の船橋市に行った時、専門の料理店があっぴょくりしました。

「与那国島では、冬の野菜なのに、1年中食べられるなんて最高だね。」と母は話していましたが、与那国島では、11月から3月の冬の間でしか食べられません。

冬になると、島中の商店に流通する野菜でお店に入ると、その野菜の香りがただよっているほどです。島のカレー屋さんや、食堂、さらに給食でも食べられますが、少しにおいにくせがあり、僕も最初は苦手でした。

今では、そのにおいが本当にくせになってしまい、大好きな野菜です。

与那国島で、その野菜は「クシティ」と呼ばれていますが、その野菜とは、「香草」または、「コリアンダー」とも言い、そう、「パクチー」の事なんです！

友人のオバアが言うには、「与那国島は、日本でゆー、戦前からパクチーを常食しているところだよ。」だそうです。

それはその昔、台湾がまだ日本の領土だった頃の話ですが、出かせぎに、沖縄本島や内地ではなく110 kmしか離れていない隣の島、台湾にみんな行っていたそうです。それくらい台湾と交流がさかんだった島では、だいぶ昔から、大陸からの種がわたり、島内でさいばいされていました。与那国島のクシティは、品種改良される前の昔ながらの本物のパクチー独特の風味が残っているそうです。

「与那国島のクシティは大好きなんだけど・・・パクチーは苦手」という島民の方も少なくないと聞きます。

ある日、僕もクシティを使った重要理を作ってみたくなりました。僕の料理と云えば、『ちゃぐりん』です。

『ちゃぐりん』は学校の図書室にあります。

与那国島には本屋も図書館もないので、代わりに内地の図書室に比べて、本や雑誌が充実しています。僕は、学校の昼休みや放課後によく図書室に行き、『ちゃぐりん』が入荷すると、友達と取り合って読んでいます。

去年の夏休みに、『ちゃぐりん』7月号にのっていた、オクラを使った「ネバーギブアップそうめん」をアレンジした料理を、一つ上の兄と作りました。その事を思い出した僕は、今年の6月号の「アッコさんの台所」にのっていた「カリッカリッパーコンサラダ」を、クシティを使ってアレンジして見たくなったのでした。

僕は、食べる事が好きですが、作って食べるのはもっと好きで、母の料理をよく手伝います。

「お母さん、久しぶりにクシティ食べたい！料理もしたい！」

「クシティは冬の野菜だから・・・今は買えないよ、でも、今週千葉から荷物を送ってもらえるから、おばあちゃんにたのんでみるね。普通のパクチーなら、きっと手に入るからそれでもいい？」と、パクチーの入手にも成功しました。

パクチーは祖母に連絡して、3日後に届きました。

早速『ちゃぐりん』のレシピを見ながら、料理を開始しました。その中で面白かったのは、ベーコンをカリッカリに焼くことと、ドレッシングを初めて自分で作ったことです。

料理の最後にパクチーを手でちぎって、加えました。ちぎる時、何とも言えないパクチーの香りがして、食欲がわいてきました。その香りを楽しむため、さっと混ぜてできあがり。

「与那国流クシティサラダだと、必ずツナが入るよ！」と島の給食センターに勤める母の言う通りに、ツナを入れてみました。びっくりするほど美味しく出来て、父は「島酒に合うよ、美味しい。」と言ってくれ、小学2年生の妹も「クシティのサラダは苦手だけど、ベーコンの入ったこのサラダなら食べられるよ。」と言ってくれたので、僕は大満足です。

今回のちゃぐりん発表がきっかけでJA与那国から、与那国町役場のクシティ担当の方を紹介してもらい、インタビューする機会を作ってもらいました。

そこで初めて分かったのですが、与那国のクシティは、世界のパクチーの中でもオンリーワンの風味を持っている事です。

また、与那国のパクチーを全て買取りたいという企業が、全国的に広めたい人が居ても、家庭の庭で細々と作られていたクシティは、まだ量産できる体制が取れていないと

ということも、初めて知ることが出来ました。

「ふがらっさー」とは、島言葉で「ありがとう」という意味です。

『ちゃぐりん』のレシピから、ヒントをもらい、アレンジした料理を作りました。そして、島の戦前の歴史や、島の未来についての話を聞き、僕なりに与那国島について考えることも出来ました。

与那国島は確かに、日本のはてにある、小さな小さな島ですが、大きく広がるその海の向こうに、さらに大きな世界と、長い歴史が広がっていることを感じることも出来ました。

「ふがらっさークシティ」

「ふがらっさー『ちゃぐりん』！」